

DENSO

株主のみなさまへ

2005年度 中間事業報告書

(2005年4月1日～2005年9月30日)



株式会社デンソー
(証券コード 6902)



Contents

2005年度 中間事業報告書
2005年4月1日～2005年9月30日

株主の皆様へ	1
開発物語：コモンレールシステム	4
トピックス	6
愛・地球博への参画	
アジア車いす交流センター(WAFCA)の活動	
リモートセキュリティシステムを開発	
第1回ものづくり日本大賞の内閣総理大臣賞を2件受賞	
企業広告の開始	
主要製品一覧と主な得意先	8
連結業績の推移	9
セグメント情報	10
連結貸借対照表	11
連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書	12
単独貸借対照表、単独損益計算書	13
アンケート結果のご報告	14
株式の状況	16
会社の概要	17

株主の皆様へ

平素より、株主の皆様には格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、当社は当中間期におきましても、好調な業績をおさめることができました。

業績の内容および、当社の今後の取り組みについてご説明させていただきます。

2005年度中間期の連結業績概況について

2005年度中間期の業績は、国内での堅調な自動車生産および海外での好調な日系車生産に支えられ、連結売上高が1兆5,066億円と前年同期比11.2%の増収となりました。この売上増加に加え、コスト低減努力などに取り組んだ結果、営業利益は1,197億円、前年同期比11.6%の増益、経常利益は1,295億円、14.0%の増益となりました。地域別に見ますと、日本は、輸出車両増に加え、カーナビゲーションやハイブリッド車用部品などの好調により、増収増益となりました。北中南米は、新規拠点立ち上げに伴う生産移管費用や新製品への切り替えに伴う費用増により、増収減益でした。欧州はカーエアコン生産の本格稼働や合理化努力により増収となり、赤字も縮小しました。豪亜はトヨタ自動車(株)のIMV生産の本格化および他の日系車の好調により、増収増益となりました。

中間純利益は672億円、前年同期比1.2%の増益となりました。好調な業績に伴いまして、中間配当金については前期より5円増配し、1株当たり18円とさせていただきます。年間では1株あたり36円とさせていただく予定です。今後も株主の皆様への利益還元のため、一層の努力を重ねてまいります。

通年の見通しですが、原油・原材料価格の高騰や為替の変動などのリスク要因はありますが、今中間期実績が好調であったこと、下期も好調な自動車生産が予測されることから、売上高、営業利益、経常利益とも前年度を上回ることを見込んでおります。

取締役社長 深谷 紘一



「クルマがずっと愛されるために」に込めた想い

現在、世界中で走っているクルマは、およそ8億台と言われています。そして人々の暮らしが便利になる一方で、地球環境汚染や交通事故の増加といった問題が深刻化しています。これから10年先のクルマ社会をどのように創造していくか。これは、クルマづくりに携わる当社の課題です。

当社は、昨年、2015年の世界を見据えたビジョンを策定し、「先進的なクルマ社会の創造」に貢献していくことを表明しました。「先進的なクルマ社会」とは、クルマ、人そして社会が共存し、人々が豊かさを感じることができる社会、つまり「クルマがずっと愛される」社会であり、私たちは、安全、環境、快適、利便の4分野の開発に焦点を当て、先進的なクルマ社会の創造に貢献していくことをあらためて決意したものです。中でも、「安全」と「環境」は、当社が最も重要な課題として掲げている分野です。

まず「安全」については、「衝突しても人が傷つかないクルマ」、いやそれ以上に「衝突しないクルマ」を実現することこそが私たちの望みであり、クルマの安全性追求のためには妥協を許さないという姿勢で研究開発を続けています。今年の東京モーターショー(会期:10/22~11/6)では当社は「安全」をテーマとし、多くの最新技術を展示しました。また、10月よりオンエアを開始したテレビCMでも、子供たちの命を守る黄色い帽子に着目し、「黄色い帽子がいなくなる日…」をキャッチコピーにして、事故を未然に防ぐ安全技術について紹介しています。

「環境」については、生産から廃棄されるまで、その一生を通じて環境にやさしいクルマづくりを目指しています。具体的には、低燃費で二酸化炭素排出量が少なく環境にやさしいハイブリッドカーに使われる重要な部品やディーゼルエンジンの排出ガスを低減するコモンレールシステムの開発をはじめ、省エネルギー活動による工場からの二酸化炭素排出量の削減などにも取り組んでいます。加えて、9月に閉幕した「愛・地球博」において未来を担う子供たちと、地球とクルマの未来を考える「エコトークセッション」を実施するなど、社会との共存を目標に環境をテーマとする様々な活動を行っています。

今までも、これからも、デンソーは「人と地球にやさしく、人々がうれしさを享受できるクルマ社会の実現」に貢献していきます。

モノづくりに対する考え方について

当社は、創業以来モノづくりの深化にこだわり続けてきました。私たちは、「1個の不良にもこだわり、どんな納期も必ず守り、たゆまぬ改善をすること」を、品質を向上させるための基本であると考えています。

また、当社はこうした高いモノづくりレベルを世界の生産拠点で実現するためには、「人づくり」が重要であると考え、創業間もない1954年に技能者養成所を開設して以来、世界23箇所に技能養成センターを設置して、積極的に人材育成に取り組んできました。さらに今年1月には、テンソーのモノづくりの標準化とグローバル展開を図るため、当社生産推進センター内に「モノづくりDNA推進室」を設置しました。このように世界レベルでモノづくり力を向上させ広げてきた結果、1970年から参加している技能五輪国際大会では、現在までに累計で20個もの金メダルを獲得しています。

そして当社のモノづくり力は、1995年に世界で初めて量産化に成功した「コモンレールシステム」*1や、第1回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞を受賞した「エジェクタサイクル」*2をはじめとする数々の製品に活かされているのです。

当社は、これからもモノづくりを通して社会と共存し、着実に成長していく企業を目指していきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

*1詳しくは、P. 4~5の「開発物語」をご覧ください。

*2詳しくは、P. 6~7の「トピックス」をご覧ください。

2005年11月

取締役社長

深谷 紘一

コモンレールシステム

～比類ない技術で地球環境保全に貢献～

現在、地球温暖化問題を重視する欧州では、CO₂排出量の少ない燃費とパワーに優れるディーゼル車の需要が急速に高まってきています。一方、日本国内ではかつての大型ディーゼル車の排出ガスの社会問題等から、ディーゼル車はクルマ社会の悪役とされ、このため乗用車市場からはほとんど姿を消してしまいました。この排出ガス問題を解決し、ディーゼル車の性能を飛躍的に向上させたのがコモンレールシステムです。

当社は1995年に世界で初めて、高圧の燃料を高精度に噴射することでディーゼルエンジンの排出ガスを浄化するとともに出力向上や騒音抑制も可能にした、トラック用コモンレールシステムの量産化に成功しました。そして乗用車用を含めてコモンレールシステムの技術開発を進めてきました。開発にあたった常務役員 宮木正彦に、開発の苦労やこの技術にける思いを語ってもらいました。

ディーゼル車の救世主「コモンレールシステム」とは

ディーゼルエンジンは、ガソリンエンジンに比べて、燃費が良く、CO₂排出量が格段に少ないという大きな特長があり

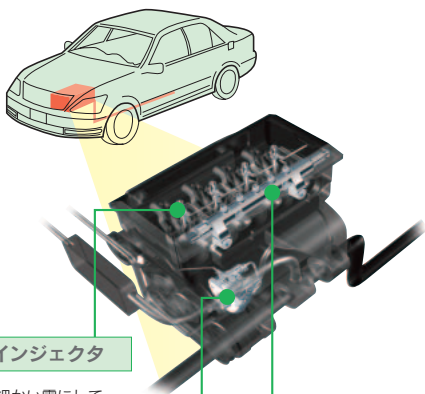
ます。一方で、窒素酸化物(NOx)とスス(PM)の排出量が多いという問題があります。しかもこのNOxとPMは、NOxを減らすために低い温度でゆっくり燃料を燃焼させるとPMが増え、PMを減らすために燃焼温度を上げるとNOxが増えるという特性があります。

この解決方法として、1970年代以前からアイデアとして考えられていたのがコモンレールシステムです。従来の燃料噴射装置はエンジンの回転力により注射器のように燃料を押し出す方式でした。このため噴射圧力がエンジン回転数に依存したり、気筒間の噴射ばらつきが大きいなどの課題がありました。これに対してコモンレールはいわば風船に高圧の燃料を蓄えておいて、ノズルの制御により必要な時だけ風船の中の燃料を噴射させる全く新しいコンセプトです。回転数に依存しない自由自在の噴射圧力制御や従来はできなかった複数回噴射により、燃焼を改善してディーゼルエンジンの性能を変革することを狙いにしました。すなわちNOxとPMの同時低減や燃焼騒音の低減のため、ディーゼルエンジンの心臓部である燃料噴射装置をコモンレール技術によってブレイクスルーすることを目指



常務役員 宮木 正彦

コモンレールシステムの見取り図



③ インジェクタ

燃料を細かい霧にして、エンジンに吹き込みます。

① サブライポンプ

燃料に高い圧力をかけて、②のコモンレールに送ります。

② コモンレール

高い圧力の燃料を蓄えておく部屋で、システムの名前はここからきています。

にしました。1985年から開発に取り組み、開発、設計、製造で様々な試行錯誤を重ねて1995年に世界で初めて1200気圧で1燃焼サイクル当たり2回の燃料を噴射可能なトラック用のコモンレールシステムを製品化しました。

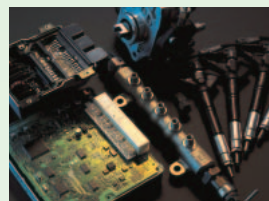
ライバルの追従を許さない、前代未聞の開発目標

次に私たちは、ヨーロッパで需要の高い乗用車用コモンレールシステムの開発にとりかかりました。まず1999年、トヨタ自動車と共同で1350気圧の乗用車用コモンレールシステムを開発し、トヨタの欧州仕様車「アベンシス」に採用されました。しかし、競合他社の追従を許さないためには、業界関係者の想像を超える極限レベルの技術に挑戦する必要がありました。そこで、私たちが打ち出した次の目標は、「1800気圧の高圧噴射、1燃焼サイクル当たり5回の

燃料噴射、そしてメンテナンスなしで100万km走行可能な耐久性を目指す」というものでした。この「1800気圧」というのは、指先で1800kgの象を支えるのと同じくらいのもので、すごい圧力に相当します。また、「1燃焼サイクル当たり5回の燃料噴射」は、耳かき1杯の50分の1程度の微量な燃料を、1万分の4秒の間隔で噴射するという超高精度・超高速の噴射制御が必要でした。これだけ高圧・高速の燃料噴射を繰り返すと、金属疲労でインジェクタの一部が割れてしまうなど問題は山積みでした。そのため構成部品の大半をゼロから再設計したり、不純物の少ない金属材料を開発したりしました。そして2002年ついに第2世代コモンレールシステムが完成し、同年には日刊工業新聞社主催の「第10回十大新製品賞」を受賞するなど多方面から高い評価を頂きました。

さらなる大きな夢にむかって

私たちの開発した第2世代コモンレールシステムは、現在でも世界最高の圧力で燃料を噴射することで、2005年1月に施行された厳しい欧州排出ガス規制(EURO4)をクリアすることができ、同時にガソリンエンジンと同等の静粛性を持つディーゼルエンジンを実現させました。しかしこれは未だ通過点でしかありません。私たちは、コモンレール技術をさらに進化させて、さらなる高圧噴射と高応答性インジェクタによる高精度な燃料噴射制御にチャレンジしています。そして私たちの開発したコモンレールが世界の市場で使用され、地球環境にやさしいクリーンでパワフルなディーゼル車の発展と普及に貢献していきます。



最新のコモンレールシステム

トピックス

■ 愛・地球博への参画

「自然の叡智」をテーマとし、120カ国以上が参加した「2005年日本国際博覧会(愛・地球博)」。会期中には、約2,200万人が来場しました。

当社が出展に参画した「トヨタグループ館」のコンセプトは、“21世紀の「モビリティの夢、楽しさ、感動」”。そして、これをベースに、未来コンセプトビークル「i-unit (アイコンユニット)」や「トヨタ・パートナーロボット」のパフォーマンス・ショーを展開しました。

当社は、「i-unit」の操作、表示や通信などにおけるコンセプトの企画と機器の開発を担当しました。また、長久手会場内の移動用に運行された未来型交通システム「IMTS (Intelligent Multimode Transit System)」にも当社の技術が活用され、期間中多くの方々に利用していただきました。

当社の参画内容(代表例)

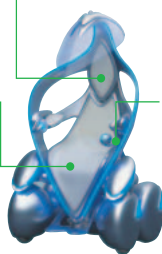
i-unit



■ IT系機器制御用
メインECU
(i-Engine)
IT系の機能(操作/
表示(LED)/IT/ITS)
を制御する。

■ 画像処理 ECU

カメラが捉えた画像の情報を分析し、
距離と位置の情報をi-Engineに送る。



■ 左手操作系

(ITコントローラー)

搭乗者が目で確認することなく指の操作だけで操作できる。i-unitが搭乗者の操作したい内容を少しの指の動きで察知し、残りの操作を誘導する。

IMTS

■ 車両制御ECU(ハードウェア)



■ 路車間通信機(車載機)



■ 受信アンテナ



■ 送信アンテナ



■ 磁気マーカセンサ

アジア車いす交流センター(WAFCA)の活動

当社が設立したNPO法人「アジア車いす交流センター(WAFCA)」が主催する車いすバスケットボールの交流大会の決勝大会が、5月、愛・地球博EXPOドームで開催されました。6カ国(中国・韓国・マレーシア・フィリピン・タイ・日本)が参加し、“車いすの格闘技”と呼ばれるにふさわしい熱戦が繰り広げられ、多くの人々に感動を与えました。

また、当社社員・OBの51人がボランティアとして参加し、国際交流の輪を広げました。

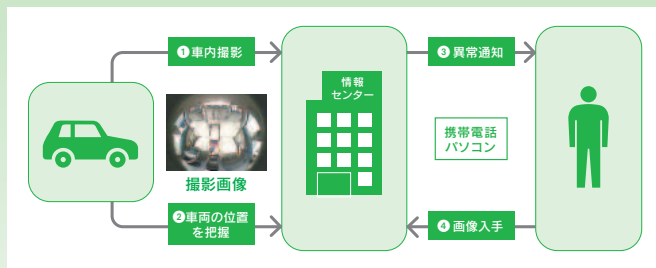


■ リモートセキュリティシステムを開発

当社は、リモートセキュリティシステムを、トヨタ自動車株式会社と共同で開発しました。

このシステムは、ドアのこじ開けなど、車両への不正侵入を検知すると、車室内を撮影し、車両位置と時間情報とともに情報センターに撮影画像を送信します。そして、ドライバーの携帯電話やパソコンにも異常発生が通知され、必要に応じて携帯電話やパソコンから異常発生時に撮影された画像を確認することができます。

このシステムは、8月に発売されたレクサスGSに搭載されました。



■ 第1回ものづくり日本大賞の内閣総理大臣賞を2件受賞

当社の「世界初エジェクタサイクルの開発・実用化」に取り組んだグループと、「技能五輪国際大会の金メダリスト」の社員が、第1回「ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞を受賞しました。この賞は、日本の産業・文化の発展に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくため、幅広い分野において特に優秀と認められた個人またはグループに対し、内閣総理大臣などが2年に1度表彰するものです。

■ 企業広告の開始

当社は、10月より、テレビや新聞などで企業広告を開始しました。

企業広告では、「クルマがずっと愛されるために」というメッセージを使用し、当社の考え方や技術を分かりやすく紹介していきます。今回は「安全」をテーマに、子供たちの命を守る黄色い帽子に着目した企業広告をつくりました。



主要製品一覧と主な得意先

■ 事業区分および主要製品

自動車分野

事業区分	主要製品
熱機器	空調製品: カーエアコンシステム、バス・農建機用エアコン、トラック用冷凍機、空気清浄器 エンジン冷却用製品: ラジエータ、冷却ファン、インタークーラ、オイルクーラ、フロントエンドモジュール、クーリングモジュール
パワトレイン機器	ディーゼルエンジン関係製品: ディーゼルエンジンマネジメントシステムおよびその構成部品(コモンレールシステム、EGRバルブ、スロットルボデー、DPF 他) ガソリンエンジン関係製品: ガソリンエンジンマネジメントシステムおよびその構成部品(インジェクタ、フューエルポンプ、VCT、スロットルボデー、エアフロメータ、点火コイル、排気センサ、モノリス 他) 駆動系製品: A/Tコントロールバルブ、A/Tソレノイド、シフトパイワイヤアクチュエータ 灯火系製品: バラスト ハイブリッド車、電気自動車用製品: スタータジェネレータ、DC-DCコンバータ、バッテリーコンピュータ、インバータ
電子機器	ボデー関係製品: メータ、エアコンパネル、電子キー、ワイヤレスドアロックコントローラ、バック&コーナソナー、セキュリティシステム、ボデーコンピュータ エンジン関係製品: エンジン制御コンピュータ 駆動系製品: A/Tコントローラ デバイス関係製品: ハイブリッドIC、リレー、各種半導体センサ
電気機器	エンジン関係製品: スタータ、オルタネータ 走行安全関係製品: エアバッグ用各種センサ&コンピュータ、ABS用アクチュエータ&コンピュータ、車間制御用レーザレーダ&コンピュータ、プリクラッシュセーフティシステム用ミリ波レーダ&コンピュータ、電動パワステ用コンピュータ
ITS	カーナビゲーションシステム、ETC車載器、車両運行管理システム、データ通信モジュール
モータ	ワイパシステム、ウォッシュシステム、パワーウインドモータ、他各種モータ



エアコンユニット



メータ



カーナビゲーションシステム



産業用ロボット



コモンレールシステム



オルタネータ



ワイパシステム



自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ式給湯機

新事業分野

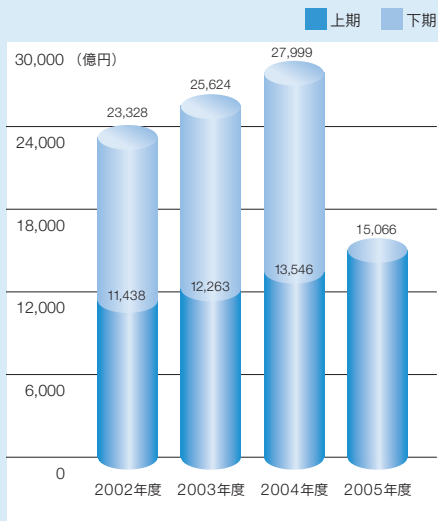
事業区分	主要製品
産業機器	自動認識関連製品: バーコードハンディスキャナ&ハンディターミナル、QRコードスキャナ&ハンディターミナル、非接触ICカード&リーダライタ、リモートID、セキュリティ機器 FA関連製品: 各種ロボット、プログラマブルコントローラ 冷却・空調関係製品: 機器用冷却器(携帯電話基地局用、コンピュータ用など)、灯油エアコン、スポットクーラ&ヒータ
生活関連機器	自然冷媒(CO ₂)ヒートポンプ式給湯機、自動水栓、昇降キッチン用モータシステム

■ 主な得意先

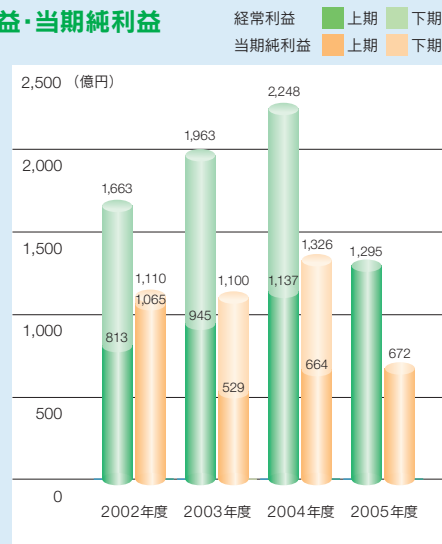
国内	トヨタ自動車(株)、本田技研工業(株)、スズキ(株)、三菱自動車工業(株)、ダイハツ工業(株)、マツダ(株)、日野自動車(株)、いすゞ自動車(株)、富士重工業(株) 他
海外	ダイムラー・クライスラー、GM、フィアット、フォード、アウディ・フォルクスワーゲン 他

連結業績の推移

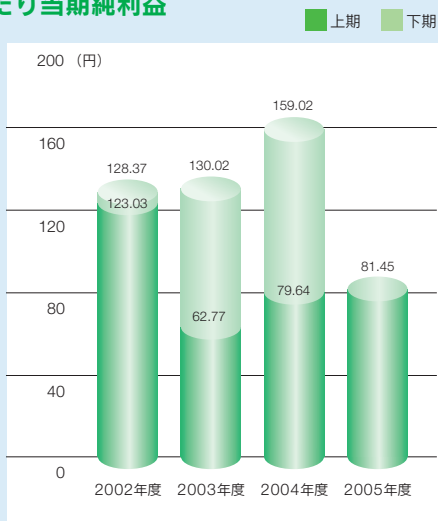
売上高



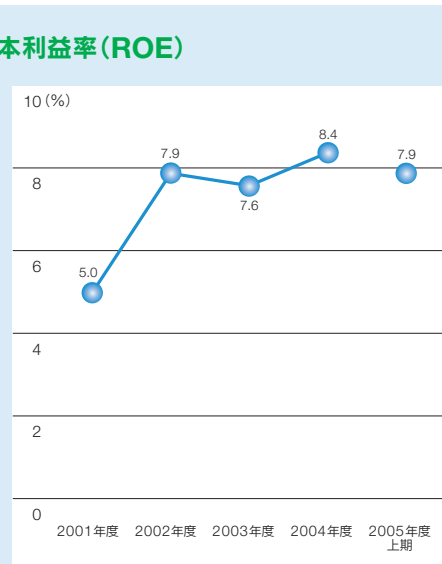
経常利益・当期純利益



1株当たり当期純利益



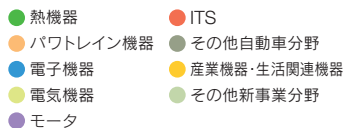
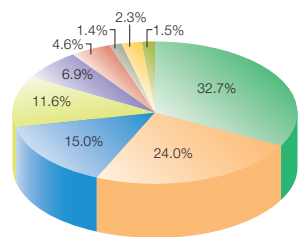
株主資本利益率 (ROE)



セグメント情報

製品別売上高

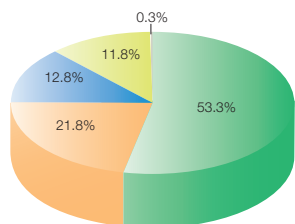
製品別売上高構成



	2005年度中間期		2004年度中間期		増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
自動車分野					
熱機器	493,348	32.7	464,021	34.3	6.3
パワトレイン機器	362,766	24.0	309,788	22.8	17.1
電子機器	224,937	15.0	202,361	14.9	11.2
電気機器	173,840	11.6	161,105	11.9	7.9
モータ	104,483	6.9	91,753	6.8	13.9
ITS	68,613	4.6	52,156	3.9	31.6
その他	21,326	1.4	18,826	1.4	13.3
小計	1,449,313	96.2	1,300,010	96.0	11.5
新事業分野					
産業機器・生活関連機器	33,776	2.3	29,740	2.2	13.6
その他	23,553	1.5	24,824	1.8	△5.1
小計	57,329	3.8	54,564	4.0	5.1
合計	1,506,642	100.0	1,354,574	100.0	11.2

地域別(顧客の所在地別)売上高

地域別売上高構成



	2005年度中間期		2004年度中間期		増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
日本	803,637	53.3	747,210	55.2	7.6
北中南米	328,119	21.8	296,075	21.9	10.8
欧州	193,186	12.8	179,965	13.3	7.3
豪亜	177,542	11.8	128,000	9.4	38.7
その他の地域	4,158	0.3	3,324	0.2	25.1
海外計	703,005	46.7	607,364	44.8	15.7
合計	1,506,642	100.0	1,354,574	100.0	11.2

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2005年度中間期末	2004年度末
資産の部		
流動資産	1,280,848	1,167,715
現金及び預金	250,308	156,625
受取手形及び売掛金	524,004	519,708
有価証券	121,561	131,099
たな卸資産	269,033	248,821
その他	115,942	111,462
固定資産	1,737,453	1,613,267
1 有形固定資産	903,503	852,821
建物及び構築物	223,598	220,327
機械装置及び運搬具	364,158	341,743
その他	315,747	290,751
無形固定資産	10,708	12,257
投資その他の資産	823,242	748,189
合計	3,018,301	2,780,982

科目	2005年度中間期末	2004年度末
負債の部		
流動負債	748,556	723,650
支払手形及び買掛金	380,259	383,160
短期借入金	90,891	64,057
その他	277,406	276,433
2 固定負債	408,564	338,452
社債	100,000	100,000
長期借入金	56,536	41,641
その他	252,028	196,811
負債計	1,157,120	1,062,102
少数株主持分		
少数株主持分	84,298	75,698
資本の部		
資本金	187,457	187,457
資本剰余金	266,112	266,051
利益剰余金	1,242,422	1,191,370
その他有価証券評価差額金	237,718	173,730
為替換算調整勘定	△38,018	△55,608
自己株式	△118,808	△119,818
3 資本計	1,776,883	1,643,182
合計	3,018,301	2,780,982

1 有形固定資産

有形固定資産は前期より507億円増加しましたが、日本、米国、メキシコ、ハンガリー、タイなどでの設備投資が主なものです。

2 固定負債

固定負債は前期より701億円増加しましたが、主な要因は日本、韓国の長期借入金が増加したことです。

3 資本計(=株主資本)

株主資本は前期より1,337億円増加し、1兆7,769億円となりました。株主資本利益率(ROE)は7.9%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2005年度 中間期	2004年度 中間期
4 売上高	1,506,642	1,354,574
売上原価	1,246,665	1,114,622
売上総利益	259,977	239,952
販売費及び一般管理費	140,235	132,637
営業利益	119,742	107,315
営業外収益・費用		
受取利息配当金	6,461	4,352
支払利息	2,031	1,490
その他(純額)	5,369	3,494
経常利益	129,541	113,671
特別利益	1,016	-
特別損失	11,249	1,296
税金等調整前中間純利益	119,308	112,375
法人税、住民税及び事業税	48,989	42,571
法人税等調整額	△1,732	△209
少数株主利益	4,820	3,592
5 中間純利益	67,231	66,421

4 売上高

売上高は、堅調な国内車両生産および、海外での好調な日系車生産に支えられ、前年同期より1,521億円増加しました。

5 中間純利益

中間純利益は、前年同期より8億円増加しました。

6 フリーキャッシュフロー(①+②)

営業活動によるキャッシュフロー①と投資活動によるキャッシュフロー②を合計したフリーキャッシュフローは、前年同期比717億円増の403億円となりました。

連結キャッシュ・フロー 計算書 (単位:百万円)

科目	2005年度 中間期	2004年度 中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	119,308	112,375
減価償却費	87,580	77,861
売上債権の増減額(△:増加)	913	△1,380
たな卸資産の増減額(△:増加)	△13,063	△17,245
支払債務の増減額(△:減少)	△8,602	△496
その他	△30,025	△59,199
6 計	156,111	111,916
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△132,062	△104,105
その他有価証券の取得による支出	△26,017	△59,563
その他有価証券の売却による収入	48,235	21,561
その他	△5,942	△1,216
6 計	△115,786	△143,323
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金及び		
長期債務の純増減額(△:減少)	41,803	13,619
自己株式の取得による支出	△33	△28
配当金の支払額	△15,681	△10,841
その他	△896	△556
計	25,193	2,194
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,599	2,741
7 現金及び現金同等物の増加額		
(△:減少額)	68,117	△26,472
現金及び現金同等物の期首残高	231,846	244,509
現金及び現金同等物の中間期末残高	299,963	218,037

7 現金及び現金同等物の増加額(△:減少額) =ネットキャッシュフロー(①+②+③+④)

フリーキャッシュフローに、財務活動によるキャッシュフロー③と、現金及び現金同等物の換算差額④を加算したネットキャッシュフローは、前年同期比946億円増の681億円となりました。

単独貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2005年度 中間期末
資産の部	
流動資産	781,637
現金及び預金	165,838
受取手形	7,135
売掛金	320,437
有価証券	101,805
製品	33,451
原材料	783
仕掛品	42,625
貯蔵品	150
前渡金	33,322
前払費用	1,126
繰延税金資産	33,378
短期貸付金	8,528
その他	33,499
貸倒引当金	△440
固定資産	1,604,934
有形固定資産	471,392
建物	87,374
構築物	20,531
機械及び装置	165,423
車両運搬具	2,527
工具器具及び備品	37,607
土地	103,439
建設仮勘定	54,491
無形固定資産	6,939
ソフトウェア	6,939
投資その他の資産	1,126,603
投資有価証券	338,189
関係会社株式	625,672
出資金	2,702
関係会社出資金	55,492
長期貸付金	5,587
前払年金費用	92,444
その他	6,632
貸倒引当金	△115
合計	2,386,571

単独損益計算書

(単位:百万円)

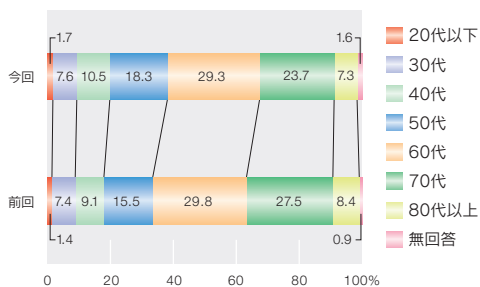
科目	2005年度 中間期末
負債の部	
流動負債	546,426
支払手形	5,262
買掛金	303,414
未払金	30,011
未払費用	69,579
未払法人税等	27,691
前受金	70
預り金	68,268
賞与引当金	34,159
製品保証引当金	7,658
その他	314
固定負債	306,211
社債	100,000
長期借入金	16,000
繰延税金負債	65,576
退職給付引当金	117,552
その他	7,083
負債計	852,637
資本の部	
資本金	187,457
資本剰余金	266,052
資本準備金	265,985
その他資本剰余金	67
自己株式処分差益	67
利益剰余金	962,440
利益準備金	43,274
任意積立金	567,143
特別償却準備金	429
固定資産圧縮積立金	324
別途積立金	566,390
中間未処分利益	352,023
その他有価証券評価差額金	236,777
自己株式	△118,792
資本計	1,533,934
合計	2,386,571

科目	2005年度 中間期
売上高	970,300
売上原価	835,248
売上総利益	135,052
販売費及び一般管理費	67,451
営業利益	67,601
営業外収益	20,977
受取利息配当金	14,502
その他	6,475
営業外費用	2,855
支払利息	206
その他	2,649
経常利益	85,723
特別利益	12
貸倒引当金戻入	12
特別損失	320
投資有価証券評価損	161
減損損失	159
税引前中間純利益	85,415
法人税、住民税及び事業税	28,166
法人税等調整額	△4,488
中間純利益	61,737
前期繰越利益	290,286
中間未処分利益	352,023

アンケート結果のご報告

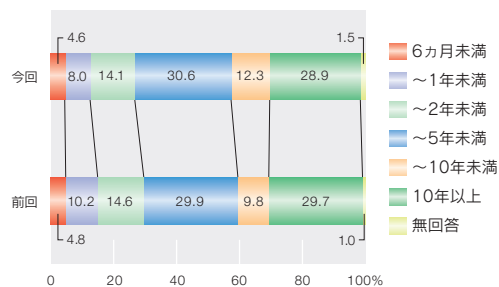
2004年度事業報告書で株主様のアンケートをお願いしましたところ、前回の2倍以上の6,500名を超える方からご返答をいただきました。多数のご返答をいただき、誠にありがとうございました。ここに、お寄せいただいたご回答の集計結果をご報告いたします。皆様からのご意見をもとに、今後もより充実したIR活動を目指していきたくと考えております。

Q1 当社株式の保有者のご年齢



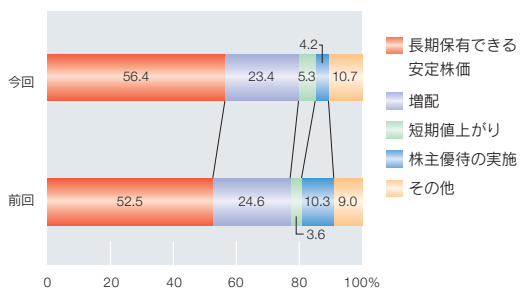
50代以上を中心に幅広い年齢層に保有いただいております。

Q2 当社株式の保有期間



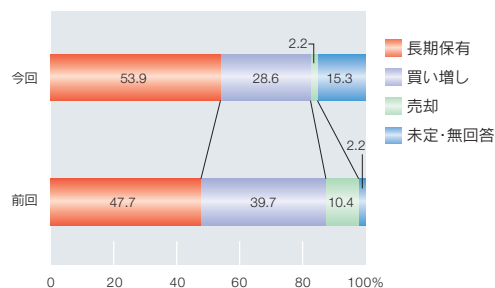
保有期間は長くなる傾向にあります。

Q3-A 当社株式に最も期待すること



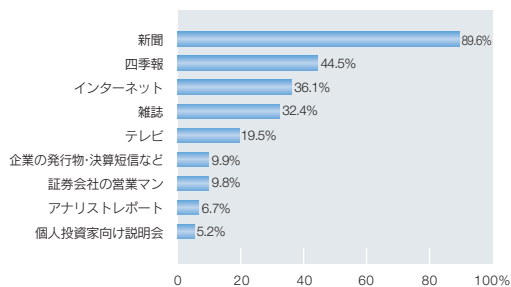
安定株価を望む方が増えていることが分かりました。

Q3-B 当社株式の今後の所有方針



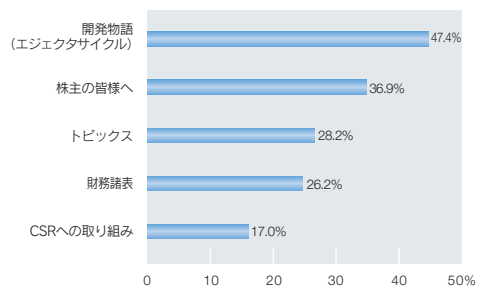
長期保有方針の方が最も多く、半数を超えました。

Q4 投資に必要な情報を収集するのにご覧になるメディア(複数回答可)



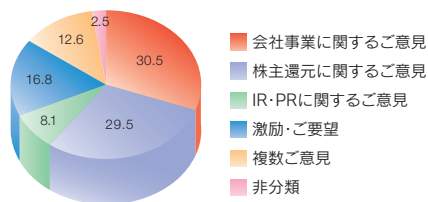
株主の皆様は複数のメディアを活用して情報を収集されており、特に「新聞」89.6%が突出していることが分かりました。

Q5 事業報告書で興味を持たれた内容(複数回答可)



最も多かったのは「開発物語」47.4%、続いて「株主の皆様へ」36.9%という結果となりました。今後も、株主の皆様にとって分かりやすく、当社への親しみを感じていただける事業報告書の制作に努めてまいります。

Q6 当社に対するご意見・ご要望・ご不満(自由記載)



自由記載とさせていただきますが、株主の皆様からは非常に多数のご意見・ご要望をいただきました。誠にありがとうございました。これらを分類いたしました結果、最も多かったのは「会社事業に関するご意見」30.5%、続いて「株主還元に関するご意見」29.5%となりました。ご意見、ご要望を厳粛に受け止め、今後も引き続きあらゆる面での経営努力と株主の皆様への利益還元に努めてまいります。

DENSOニュースメール配信(無料)のお知らせ

株主の皆様へのサービス向上のために、EメールによるIR情報配信サービスを行っております。ご希望の方は、下記記載の登録サイトに必要事項をご記入のうえ、ご登録ください。
<http://www.dirnet.jp/6902>

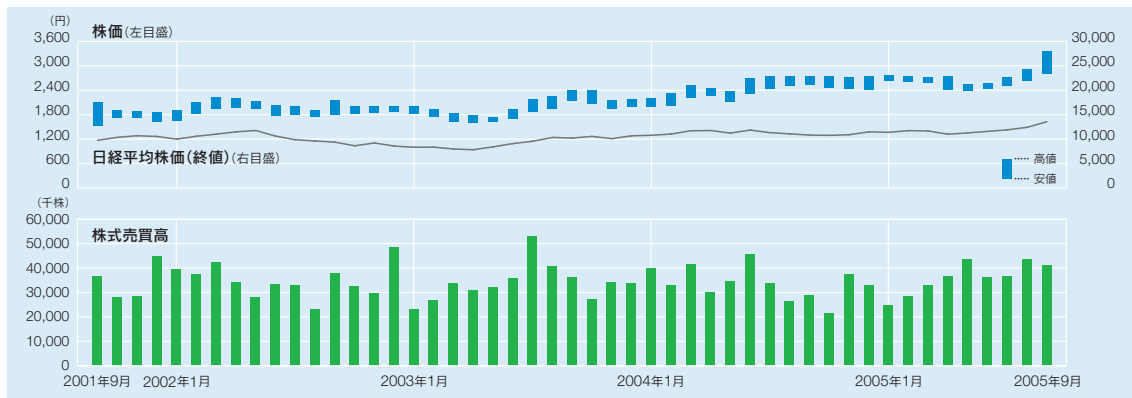
厳正なる抽選の結果、200名様に当社商品の車載用除菌イオン発生器「イオンテラ・アロマプラス」を9月末に発送いたしました。なお、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

株式の状況

(2005年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	1,426,942,000 株
発行済株式総数	884,068,713 株
株主数	43,070 名

株価の推移



配当金の推移

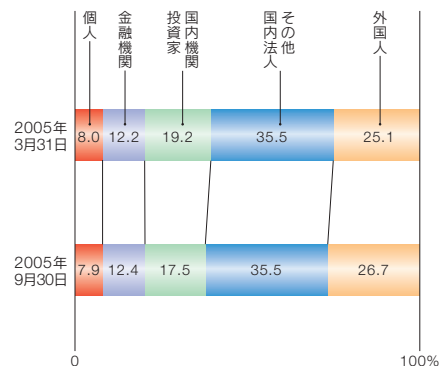
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
一株当たり中間配当(円)	10.00	11.00	13.00	18.00
一株当たり期末配当(円)	10.00	13.00	19.00	-
合計(円)	20.00	24.00	32.00	-

大株主 (上位10名)

大株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
トヨタ自動車株式会社	203,127	24.61
株式会社豊田自動織機	69,373	8.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	55,179	6.68
ロバートボッシュ・インダストリー・アンラーゲン有限会社	47,434	5.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	40,989	4.96
日本生命保険相互会社	23,050	2.79
三井住友海上火災保険株式会社	16,148	1.95
デンソー従業員持株制度会	13,364	1.61
ステートストリートバンク・アンド・トラストカンパニー	10,433	1.26
明治安田生命保険相互会社	9,373	1.13

注) 当社は自己株式58,255千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。

株式保有者別分布状況 (議決権比率、%)



会社の概要

(2005年9月30日現在)

会社データ

社名	株式会社デンソー
英文社名	DENSO CORPORATION
本社所在地	〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1 TEL 0566-25-5511(案内)
設立年月日	1949年12月16日
資本金	1,874億円
従業員数	104,661名(就業員ベース)
国内事業所	製作所・工場 安城製作所 西尾製作所 高棚製作所 幸田製作所 豊橋製作所 阿久比製作所 善明製作所 池田工場(以上 愛知県) 大安製作所(三重県) 広島工場(広島県) 北九州製作所(福岡県)
	研究所 デンソー基礎研究所(愛知県)
	試験場 額田(愛知県) 網走(北海道)
	支社・支店 東京支社・支店 大阪支店 広島支店
連結子会社	176社 (日本66社 北中南米33社 欧州31社 豪亜46社)
持分法適用会社	31社 (日本12社 北中南米6社 欧州2社 豪亜他11社)



本社



デンソー基礎研究所

取締役

取締役会長	岡部 弘	専務取締役	三宅 信弘
取締役副会長	齋藤 明彦	専務取締役	原田 晋
取締役社長	深谷 紘一	取締役	豊田 章一郎
取締役副社長	犬飼 卓生		
取締役副社長	大森 徳郎		
取締役副社長	松本 和男		
専務取締役	岩月 伸郎		
専務取締役	小川 王幸		
専務取締役	福崎 倫生		
専務取締役	阿野 正敏		

監査役

常勤監査役	堀内 伸晃
常勤監査役	渡辺 敏男
監査役	張 富士夫*
監査役	岸田 民樹*
監査役	齋藤 勉*

*社外監査役

常務役員

加藤 光治	杉浦 明俊
花井 嶺郎	柳生 昌良
徳田 寛	高尾 光則
加藤 宣明	柵木 充彦
大屋 健二	宮木 正彦
小林 耕士	鹿村 秋男
松下 光生	丸山 晴也
太田 実	Manfredo Nicoletti
広中 和雄	伊藤 昇平
土屋 総二郎	槇野 孝和
杉 光	熊野 幹夫
白崎 慎二	田島 明雄
西村 繁広	山中 康司
根井 也寸志	

DENSO CORPORATION

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
配当金受領株主確定日	3月31日
一単元の株式数	100株
証券コード	6902

なお、中間配当を実施するときの中間配当金受領株主確定日は9月30日です。

当社は、貸借対照表ならびに損益計算書を
当社ホームページ(<http://www.denso.co.jp>)に掲載しております。

【単元未満株式の買増制度のご案内】

2004年7月より「単元未満株式の買増制度」を導入いたしました。単元未満株式(100株未満)をご所有の株主様が、1単元の株式の数(100株)にするための不足分をお買増しいただける制度です。

お手続きの詳細につきましては、名義書換代理人までお問い合わせください。(証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引の証券会社にお問い合わせください。)

なお、単元未満株式の買取請求につきましても、引き続きお手続きが可能です。

株式の名義書換

名義書換代理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (同送付先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の
電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-232-711(お問合せ先)
0120-244-479(各種手続用紙のご請求)
ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

2005年10月1日より、UFJ信託銀行株式会社と三菱信託銀行株式会社の
合併に伴い、名義書換代理人が変更になっております。